

インタビュー

これまでのキャリアで培った経験・スキルを活かし、サイバーセキュリティ領域の専門家へ

当社には、Cyber advisory・R&D・CICの3つの部門が存在し、サイバーセキュリティに関わる様々な仕事をしています。パートナーによる、リーダーから見たDTCY・サイバーセキュリティ領域のビジョン、中途入社者による、転職した理由、仕事内容とその魅力、転職者へのメッセージ、そして、新卒入社者によるトークセッションから、是非DTCYの社風・可能性をご体感ください。

中途入社者インタビュー



プライバシー・セキュリティ領域に強いコンサルティングファームであり、まさに理想通りの会社

マネジャー

事業会社出身／プライバシー／リモートワーク



この人たちと一緒に働くことで、自分自身の成長にも繋がる

マネジャー

外資系ソフトウェアベンダー出身／自動車業界／サイバーセキュリティ／ワークライフバランス



国内トップクラスのセキュリティの専門家が数多く、ここなら大きく成長できる

シニアコンサルタント

総合電機メーカー出身／セキュリティ／ワークライフバランス／働く環境・魅力



ビジネス革新や経営戦略のなかにセキュリティを取り込んでいく攻めのアプローチ

シニアコンサルタント

国内クレジットカード会社出身／サイバーセキュリティ／グループ内連携／多様な専門家との協働

新卒入社者トークセッション



描けるキャリアは多種多様専門性を磨き、自分の理想像を実現できる

新卒入社者トークセッション（3職種対談）

新卒入社



やりたいことに挑戦できる環境で、自分の専門性を磨いていける

新卒入社者トークセッション（CIC・R&D）

新卒入社



自らのバックグラウンドを活かし、バリューを見出す挑戦を重ねていく

新卒入社者トークセッション（対談セキュリティ）

新卒入社

プライバシー・セキュリティ領域に強いコンサルティングファームであり、まさに理想通りの会社

A.K.
デロイト トーマツ サイバー合同会社
Cyber Advisory マネジャー
事業会社出身
プライバシー／リモートワーク

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



前職の仕事内容、転職理由、DTCY を選んだ理由を教えてください。

前職は事業会社のコーポレート部門で、情報セキュリティを担当していました。コンサルティングファームやベンダーなど外部の専門家とともに、社内情報システムの入替えや個人情報保護のマネジメントシステムの運用など、幅広く様々な業務を手掛けていました。その中でも、情報管理体制の統制のあり方を考えることや、PDCAを回して運用していく仕事が面白く、やりがいを感じていました。

一方で、自分のキャリアに確固たる核が育っていないような思いも大きくなっていきました。様々な業務を担当させていただいても、専門性が問われる部分は外部の方に支援していただいております、自分自身は内部調整や各種手続きに追われている。今後のキャリアを考えたときに、高い専門性を持った人材になりたいと考えました。デロイト トーマツ サイバー(以下、DTCY)は、プライバシー・セキュリティ領域に強いコンサルティングファームであり、まさに理想通りの会社だと思いい社しました。

現在の業務内容について教えてください。

私が所属するチームでは、プライバシー関連のコンサルティングサービスを提供しています。その中でも私は金融系、特に保険会社のクライアントを担当しています。単にプライバシーに関わるシステム構築を支援するにとどまらず、会社全体を統制する視点で、幅広い課題に対応しています。例えばグローバルに事業を展開する企業では、国内だけでなく海外の法規制にも対応しながら、どうガバナンスを強化していくのか、全社的な仕組みを作り込んでいく必要があります。また、近年はDX（デジタルトランスフォーメーション）の流れを受けて、多くの企業が積極的にデータの利活用に取り組んでいます。例えば保険会社でいえば、自動車の走行情報をもとに保険商品の設計をしたり、車載カメラの画像などを活用して事故対応の精度を高めたりしています。様々なデータが手に入るようになった現在、その活用にあたってプライバシーのリスクをどう管理していくか、あらゆる業界にとって重要な課題となっています。



特に印象に残っているエピソードを教えてください。

数年前に担当したあるクライアントのプロジェクトが印象に残っています。EU域内の個人データ保護を規定する「GDPR（一般データ保護規則）」の施行に対応する大型案件でした。法令対応と言っても、規定された要件を満たすためには、業務のやり方を変えたり、カバーできない部分はシステムの機能で補ったり、全体が適切に回っていく仕組みを構築しなければなりません。

そのため法務部門だけでなく、システム部門、総務部門、業務部門など複数部門が連携して課題を整理していく必要がありました。それぞれの立場によって考え方も異なるため、各部門と密にコミュニケーションをとり、ときには全担当者が一堂に会して意見を出し合うような場面も。規定や業務フロー、要件定義書などをひとつひとつ作り上げ、全社的な仕組みを構築することができました。関わる人数も多く、コミュニケーションは大変でしたが、その分、達成感も大きかったです。

今後の目標を教えてください。

現在の目標は、マネジャーとしてさらに力を付けていくことと、金融、保険業界に関する専門性を高めていくことです。やはりマネジャーになると、クライアントの中でも上位の役職者の方と相対することが増えてきます。安定的に案件を獲得していくこともマネジャーの仕事なので、役員クラスの方々ともうまくコミュニケーションを取り、より信頼される存在を目指したいですね。同席するパートナーやディレクターは、サイバーセキュリティの最近の動向など、クライアントにふと尋ねられたことにも、即座に的確な説明をすることができ、とても勉強になります。

私もそうでしたが、最初はコンサルティングワークに苦勞することがあるかもしれません。それでも自分なりに考えて自分から動いていくことが大切。たとえ間違っても自分から答えを持っていけば、そこから議論が広がりますし、周囲に相談すればアドバイスをもらえます。意欲をもって積極的に動いていけば必ず成長できる環境だと思います。



オフの過ごし方を教えてください。

ほぼ毎日リモートワークのため、最近は自宅で過ごす時間がとても増えました。ゆっくりと料理をすることもありますし、趣味の観葉植物を育てるなどして、オフの時間を楽しんでいます。昔はよく枯らしてしまったものですが、毎日きちんと手をかけてあげると、すくすく育っていきます。それを見るのがとても楽しくて、将来は自然に囲まれた広い庭のある家で、本格的にガーデニングをやりたいと思うようになりました。

[一覧へ戻る](#)

[採用ページへ戻る](#)

この人たちと一緒に働くことで、 自分自身の成長にも繋がる

S.H.

デロイト トーマツ サイバー合同会社

Cyber Advisory マネジャー

外資系ソフトウェアベンダー出身

自動車業界／サイバーセキュリティ／ワークライフバランス

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



前職の仕事内容、転職理由、DTCY を選んだ理由を教えてください。

前職は外資系ソフトウェアベンダーでセールスを担当していました。クライアントの要件に沿ったソフトウェアを販売する中で、要件を策定する側に興味を持ったのがコンサルタントの仕事との最初の接点です。

転職先としてデロイト トーマツ サイバー（以下、DTCY）を選んだ理由は2つあります。まず1つ目は、自動車業界のセキュリティに携われるという点です。昨今の自動車業界は、コネクテッドや自動運転といった次世代自動車技術を指す「CASE」というキーワードが盛り上がっています。100年に1度の大変革とも呼ばれるほど、社会的インパクトのある出来事であり、そこに携わることで得られる経験やスキルは非常に大きなものになると考えました。2つ目は、前職時代にDTCYの社員と一緒に仕事をする機会があったのですが、ドキュメントの内容や仕事の進め方など、非常に丁寧で心に残っていたからです。この人たちと一緒に働くことで、自分自身の成長にも繋がると考えました。

現在の業務内容について教えてください。

私が所属するチームでは、自動車業界のクライアントに対し、サイバーセキュリティに関わるアドバイザリー業務を行っています。自動車という人命に関わるプロダクトを製造するクライアントにとって、サイバーセキュリティはより大きな関心事。そんな最中に、ネットワーク化された自動車、いわゆるコネクテッドカーが、ネットワーク越しに操作を乗っ取られるというサイバー攻撃の実証実験が行われました。これが現実で起こってしまえば、生産停止に追い込まれることだってあるでしょう。また、自動車業界はグローバルで大量のリソースを保有しています。何万、何十万と存在するネットワーク端末を、どこを中心にとどれぐらいコストをかけて守っていくかという方針や仕組みのデザインは大きな課題。その課題解決に向けて、ITによる業務効率化、セキュリティに関するインシデントやウイルス情報などのグローバル共有を支援する仕組みの検討を支援しています。



特に印象に残っているエピソードを教えてください。

「ゼロベースで考えなければならない」これこそがこの仕事のエキサイティングな所であり、コンサルタントの真骨頂です。まずはクライアントの抱える課題感を正しく言語化し、ステークホルダーと共有しなければなりません。例えば、報告書をまとめる際、些細な言い回しの一つ一つにこだわり、パートナーやシニアマネージャーとの議論が数時間に及ぶこともあります。問題を構造化し、課題解決までの道筋を時間をかけて考えていくのです。ことサイバーセキュリティにおいては、情報の機密保持のため、クライアントに他社事例を紹介しながら提案することができません。前職とは全く異なる提案スタイルのため苦労しましたが、前向きな議論が好きな人が多いので、相談すれば時間を取って真剣に話してもらえます。そういったやりとりを通して、コンサルタントとしての考え方やスキルを短期間に学ぶことができました。

今後の目標を教えてください。

転職理由の1つでも挙げた、「CASE」に深く関わっていきたいです。私は元々あらゆるものがネットワークで繋がるといふことに、強い関心がありました。将来的には、「スマートシティ」にサイバーセキュリティやITといった観点から関わることが目標です。DTCYには手を挙げればチャレンジできる文化がありますので、そうしたチャンスが来た際にいつでも飛び込めるよう、準備をしておくことが重要。最近では、世界で注目されているサイバーセキュリティに関するキーワード「ゼロトラスト」(信頼せず攻撃されることを前提とした、セキュリティのコンセプト)についてデロイト トーマツ グループ内の研究レポート、オンラインセミナーで学ぶなど、知見を深める活動もしています。



オフの過ごし方を教えてください。

プロジェクトの合間には連休を取得して、趣味の旅行を楽しんでいます。普段の休日は子供を公園に連れて行ったり買い物に行ったりしながら、外に出て体を動かすことで、考え事の整理をしていますね。平日においても、今は基本的にリモートワークですので業務を調整して、夕方は保育園のお迎えに行ったり、夕飯づくりなど家事もしています。従来のコンサルティングファームは激務であることが多かったようですが、当社では自分次第で調整可能です。成果を出すことがコンサルタントの本分ですので、仕事の進め方は自由。ワークライフバランスを保てる環境だと思います。

[一覧へ戻る](#)

[採用ページへ戻る](#)

国内トップクラスのセキュリティの専門家が数多く、 ここなら大きく成長できる

I.K.

デロイト トーマツ サイバー合同会社

Cyber Advisory シニアコンサルタント

総合電機メーカー出身

セキュリティ／ワークライフバランス／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



前職の仕事内容、転職理由、DTCY を選んだ理由を教えてください。

もともと総合電機メーカーで、組み込み系エンジニアとして様々な製品を開発していました。スマートフォンやカーナビのほか、自動運転車の試作などにも携わりました。その中で、特に近年はインターネットの発展に伴い、モノ同士がつながることが増えており、製品開発においてセキュリティ視点が欠かせないものとなっています。例えば自動運転車などは、もしセキュリティが破られて、運転している車を悪意のある誰かに乗っ取られてしまうと、人命に関わる事態にもなりかねません。

とはいえモノづくりの最前線では、機能を確実に実装していくことが優先されがちで、設計段階からセキュリティを組み込むことはなかなか難しいのが現状。そこで、セキュリティの知見と経験が身に付く環境に移りたいと考えようになったのです。転職活動ではセキュリティに関わる会社を複数見て回りました。その中でデロイト トーマツ サイバー（以下、DTCY）は国内トップクラスのセキュリティの専門家が数多く、ここなら大きく成長できると感じ入社しました。

現在の業務内容について教えてください。

私の所属チームでは、メーカーの案件を数多く手掛けています。これまでモノづくりの世界では、セキュリティと聞くと、どちらかといえば「守り」の印象が強かったように思います。実際、セキュリティ対策は後付けで考えられることも少なくありませんでした。

これに対して、私たちは企画・設計段階からセキュリティを組み込んでいく「セキュリティ・バイ・デザイン」の考え方に基づいて様々なソリューションを提供しています。具体的には、製品セキュリティに関するリスクアセスメントや対策の支援をするほか、特許調査の支援も行っています。製品設計に他社が特許化している技術を採用していることが判明したら、設計を変えることで特許侵害を回避することができます。また、特許化されていない技術があれば特許化することで、セキュリティ機能を「攻め」のビジネス戦略として活用することができるのです。



特に印象に残っているエピソードを教えてください。

ひとつには絞れませんが、いくつものプロジェクトを経験してきて、最もやりがいを感じるのは、クライアントに新たな気付きを与えられたときです。「そこには気付かなかった」「そういう視点もあるんだね」などと言ってくれれば、とても嬉しく思います。

クライアント先でお話をうかがっていると、モノとモノがつながるコネクテッドの時代に、セキュリティが重要であることは、多くの方が理解されています。しかし、それをどう実現すればいいのか困っているという声も少なくありません。私自身もエンジニア時代と同じように感じていたので、その感覚はよくわかります。セキュリティ対策に取り組まなければならないですが、どこにフォーカスをあてて作り込むか、いかにコストをかけずに実現するか。考えるべき課題は多く、実はクライアント自身も意識されていない悩みも多いものです。そうした漠然としたお困りごとを丁寧に整理して、クライアントご自身が確実に答えにたどり着けるように、しっかり伴走するのが自分の役割だと考えています。

今後の目標を教えてください。

プロジェクト経験を重ねていく中で、セキュリティに関する知見をさらに深めていきたいと思っています。技術的な知識はもちろんです。特許など法律もからんでくるので、幅広い知識を身に付けていく必要があります。また、モノづくりの分野だけでなく、金融、サービスなど他業界への支援にも関わってきたいです。様々なプロジェクトを通じて短期間で多様なビジネスや製品、それに関わるセキュリティの知見を増やせるのはもちろん、社内に各分野の専門家が多く、人から学べる環境があるのは、DTCYならではのメリット。セキュリティ対策に絶対的な正解はありませんが、その中でもベストプラクティスを導いていきたいです。セキュリティの専門家として、クライアントと一緒に良い製品を作り、日本のモノづくりに貢献することができれば嬉しいです。



オフの過ごし方を教えてください。

コンサルティングファームは忙しいイメージがあるかもしれませんが、自分次第で調整のきく部分も多いので、土日はしっかり休めています。小さな子どもが2人いるので、公園に連れて行って遊んだり、一緒にご飯を作ったりして過ごすことが多いですね。子どもたちはまだまだ手が掛かるので、平日も妻と協力しながら、仕事と子育ての両立を図っています。最近は自宅でのリモートワークが中心ですが、なるべく定時に仕事を終えるようにしています。

[一覧へ戻る](#)

[採用ページへ戻る](#)

ビジネス革新や経営戦略のなかにセキュリティを取り込んでいく攻めのアプローチ

S.W.

デロイトトーマツサイバー合同会社

Cyber Advisory シニアコンサルタント

国内クレジットカード会社出身

サイバーセキュリティ／グループ内連携／多様な専門家との協働

※役職・内容はインタビュー当時のものになります



前職の仕事内容、転職理由、DTCYを選んだ理由を教えてください。

前職は国内クレジットカード会社でリスク管理業務全般を担当していました。サイバーセキュリティを中心とした専任部隊として、サイバー攻撃からどう情報資産を守るか、様々な対策を講じていました。特に最近では、DX（デジタルトランスフォーメーション）に関わるイノベーション創出や、モバイルデバイスを使ったリモートワークの推進など、新しい技術を使ってビジネスを進化させていくような案件が増えてきました。それがとても刺激的で楽しく、こうした仕事に本格的に取り組んでいきたいと考えたのが転職のきっかけです。

コンサルティングファームを目指したのは、各業界で進むトランスフォーメーションに貢献することができる機会の多さと、単一企業や業界の枠を越えた異業種とのコラボレーションなどダイナミックな取り組みに惹かれたからです。その中でデロイトトーマツサイバー（以下、DTCY）に魅力を感じたのは、セキュリティに対する考え方。面接前に社員と話をする機会があったのですが、リスク管理など守りだけではなく、ビジネス革新や経営戦略のなかにセキュリティを取り込んでいく攻めのアプローチの話聞き、心から共感できたのが決め手となりました。

現在の業務内容について教えてください。

私の所属するチームでは、サイバーセキュリティという専門性を活かしながら、「守り」と「攻め」の両方の観点から広くコンサルティングを行っています。クライアントの業種は様々で、コンサルティングの内容也多岐にわたっています。

「守り」の観点では、会社全体のセキュリティを高度化したいという案件や、最近ではコロナ禍におけるテレワークを推進するにあたりリスク評価をしたいというご要望も増えています。「攻め」の観点では、戦略的に市場投入を目指している新しい商品やサービスに関して、セキュリティの機能を企画したり、安全性を訴求するため第三者認証を取得したりします。一昔前は、セキュリティ対策というと手間やコストばかりかかる後ろ向きな仕事と捉えられがちでしたが、今やセキュリティ機能を備えることによって、ビジネスの効率や利便性、信頼性を高めることに繋がるのです。それだけ重要な経営判断に携わることができるのは、この仕事の醍醐味と言えます。



特に印象に残っているエピソードを教えてください。

クライアントのビジネス展開の根幹に携わるため、プロジェクトを完遂した際の達成感はとても大きなものです。ただその中で、一口にセキュリティと言っても、技術だけでなく法規制への対応やビジネス的な観点など、様々な要素がからんできます。実際にプロジェクトに入ると、クライアントが求めるレベルで全ての領域をカバーすることはなかなか難しいのが現状です。

でもそんなときにも、社内を探せば必ずその分野に詳しい専門家が見つかるのです。クライアントとの打ち合わせに同席してもらったり、個別にアドバイスをいただいたりすることができます。オールデロイトの力でクライアントに価値を提供していることを目の当たりにし、改めてデロイト トーマツ グループの強さを実感しました。

今後の目標を教えてください。

セキュリティを軸として、さらに専門性を高めていきたいです。今後セキュリティは、製品やサービスの付属物ではなく、メインのアピールポイントになっていくでしょう。新しいビジネスを企画する段階からセキュリティを組み込んでいかないとサービスとして訴求できなくなるからです。IoT等の新技術を活用したスマートシティ構想や、移動をサービスとして考えるMaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）など、もはやインターネット上の情報やデータだけでソリューションが完結することはありません。サイバー空間に加えて、ビルや街など物理的なフィジカル空間にもセキュリティが及んできています。そうした中で、セキュリティの知見を活かし、経営ビジョンやビジネス戦略に展開していけるようになりたいと考えています。事業会社のCISOやCIOクラスの方と同等に渡り合い、全体最適でサイバーセキュリティを活用できる人材として、コンサルティングサービスを提供していくのが理想です。



オフの過ごし方を教えてください。

温泉が好きなので、休みを利用して全国の温泉巡りをしています。基本的に自分の裁量で仕事を進めていくことができ、休むときはしっかり休めるので、年に一度、少し贅沢して、良い宿に泊まるのを楽しみにしています。最もお気に入りののは、福島県の温泉です。最近では気軽に遠出できないのが残念ですが、近所にスーパー銭湯があるので、しばらくはそちらに通って気分転換を図ろうと思っています。

[一覧へ戻る](#)

[採用ページへ戻る](#)

描けるキャリアは多種多様専門性を磨き、 自分の理想像を実現できる

新卒入社者トークセッション（3職種対談）

Cyber advisory、R&D、CICという3つの領域で活躍する同期入社3人の若手社員がDTCYの魅力をご紹介します！

K.M、S.K、M.K

デロイト トーマツ サイバー合同会社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります



DTCYならではの幅広い事業領域と専門性

現在の配属部署とミッション、そしてなぜDTCYを選んだのか、お聞かせください。

K.M：私はCIC（Cyber Intelligence Center）に所属しています。お客様のインフラストラクチャをサイバー攻撃から守るため、ネットワークやデバイス、セキュリティ製品のログを収集して監視・分析することがメインの業務です。いわゆるブルーチームですね。

M.K：私が所属するのは、サイバーセキュリティ先端研究所（R&D）です。ミッションは、研究成果を社会実装するためのツールやアセットの開発です。先行研究の論文を読み、論文を書いてアウトプットするだけでなく、実際に手を動かして実装や検証も行います。研究だけでなく、研究の成果を世に届けるところまで手掛けることができる点に惹かれて入社しましたが、先輩たちはすでに研究成果を活用した新しいサービスの提供や、お客様と共同でシステム開発をしており、研究成果をスピーディに社会実装できる環境を実感しますね。

S.K：脅威情報を収集する研究などもされていると聞いたことがあります。

M.K：研究所ではSNSから情報収集し、フェイクニュースの検知に役立つ研究やブロックチェーンのトランザクションデータを収集し、不正な取引を分析する研究などにも取り組んでいます。私自身は、Webサイトのレピュテーションをテーマとし、Webの情報をを用いた企業のセキュリティやプライバシーのリスク評価について研究するポジションです。また、「衛星の打ち上げ」というテーマにも取り組み、セキュアな衛星開発についての研究も進めています。



K.M：衛星の開発とは、またスケールが大きいですね。S.Kさんはコンサルティング領域を担当していると思いますが、どのような業務を担当しているのですか？

S.K：私はCyber advisory（コンサルティング）として勤務しています。Cyber advisoryには、クライアントのセキュリティ戦略立案を行うチームもあれば、個人情報保護に対応するチームやシステムの導入支援を担当するチームなどさまざまなカテゴリがあります。その中で、私自身は、お客様のシステムに対して疑似的なサイバー攻撃を行い、そこから識別された課題や対策案のご提示を行っています。対策に際しての具体的な攻撃の監視方法やシステムの運用方法を提案し、今後の支援を行うこともあるので、技術的な仕事だけでなくコンサルティングワークもかなり多いですね。

K.M：私たちは同期といっても、やはり業務がそれぞれまったく違いますね。そもそもなぜDTCYを選んだのかも興味があります。

M.K：私は実はサイバーセキュリティに興味を持ったのは、主人公がホワイトハッカーの、とあるドラマがきっかけです。高校生の頃に感化されて、将来の夢はホワイトハッカーと言っていました（笑）。それが私のサイバーセキュリティの原体験ですね。

K.M：そう言われると、私の原点はゲームかもしれません。近未来のIoT社会が舞台で、そこで起こるセキュリティ犯罪が題材になったアクションゲームです。

S.K：私もやっていました（笑）自分は高校生の時にとあるテレビ番組でサイバーセキュリティの概念に触れたのを覚えています。カッコいいな、と思いサイバーセキュリティを学べる大学に行こうと考えました。

K.M：サイバーセキュリティ領域を仕事にしたいというのは3人とも共通していたのですね。ちなみに私自身、初めは漠然とした興味からのスタートでしたが、大学院でサイバーセキュリティの基礎理論、システム関連、法律やマネジメントまで学んでいく中で、自分はコンサルティングよりも技術寄りの志向だなと実感しました。調べていく中で、DTCYのCICであれば、監視だけでなく提案にも携われるため、大きなやりがいを得られそうだと思い志望するようになったのです。

M.K：私自身は初めはホワイトハッカー、そしてコンサルタントへと興味の対象は変わっていったのですが、次第に社会に貢献できる研究開発に携わりたいと思うようになりました。あるとき所属する研究室にDTCYの方が来られ、お話を伺いすることができ、それが志望のきっかけでしたね。

S.K：研究所を持っているコンサルティングファームはなかなかありませんからね。私は、セキュリティの事業会社も検討したのですが、必然的に監視や製品開発など守る側になってしまうケースが多いのです。ですがコンサルティング側であれば、ハッキング技術などのテクニカルなスキルが活かせるケースも多いと知りました。そこでDTCYを目指すようになったのです。



蓄積したナレッジ、そして先人のノウハウから学びを

日々の学びや業務の中で磨ける専門性について教えてください。

K.M：SOC（Security Operation Center）といわれるサービスを提供する企業や組織は他にもありますが、DTCYのCICは非常に幅広い製品に触れられるため、とても刺激になります。監視しているだけでも多くを学びますし、最新の脆弱性（OSやソフトウェアにおけるセキュリティ上の欠陥）診断の技術も吸収できるため、日々の仕事が全て学びになっています。

我々の性質としては、攻撃を受けてから何が起きているのか、問題はないかを分析するので“守り”の部分が主業務ではあります。しかし、影響があった場合は早急にクライアントに通知することが必要なので、日々、分析を重ねてスピードや成果を上げるスキルを磨いていくしかありません。セキュリティを守る最前線にいるポジションだからこそ、日常の監視業務が全てノウハウになっていると思いますし、すぐ隣にいる先輩方からさまざまな知見を学びながら成長できますね。

M.K：研究所には幅広い分野においてスペシャリストの先輩がいるので、多様な専門知識を学べる機会が非常に多いです。新しい分野を学ぶ際には、外部研修を受けさせてもらうこともできます。私も小型衛星のトレーニングに参加させてもらい、衛星開発の知見を磨きました。参考文献となる学術書も購入できるので、文献から得た知識をもとにして自ら手を動かして学ぶことができます。

K.M：CICでもメンバーから希望が上がったら、学びに必要な図書を購入しています。普通なら手の届かないような高額な専門書をタイムリーに入手できるのは、ありがたい環境だと感じますね。

S.K：私は業務上、ハッキングを行うため、やはり日々の経験がそのまま学びになります。どのクライアント先も、それぞれがセキュリティを固めてシステムを守っており、導入されているセキュリティ製品やSOC等の監視の目をかいくぐるために、どういった攻撃をしていくのか、どう脆弱性を発見していくのかを実践で学ぶことができますね。とはいえ、環境固有の知識に偏らないようにするためには、日々の勉強も必要です。DTCYでは資格取得の補助を受けることができますし、外部研修も受けられます。ラスベガスで開催されるBlack Hatというセキュリティのカンファレンスに参加させてもらったメンバーもいて、飛行機代も含めて数百万円もの費用を会社が負担してくれました。

M.K：それは羨ましい話です。

K.M：そんな支援もあるんですね。

S.K：これだけ充実した学びの環境はそうそうないと思っています。



キャリアの幅を広げながら挑戦する醍醐味がある

DTCYだからこそできることについて教えてください。

K.M：私は今、アナリストとして監視業務を担当していますが、インテリジェンス（サイバー攻撃の検知に向けて情報収集・分析し、情報提供・アドバイザリーを行うこと）の分野にも興味があります。ダークウェブに流出している情報を集めるノウハウなどもDTCYならではの高い技術があってこそのもので、いずれ学びたいですね。DTCYの強みは、サイバーセキュリティにおける多様なキャリアが描け、選ぶこともできるという点だと思います。今日、お二人のお話を聞いてみて、それぞれの仕事も面白そうだと感じましたし、この先CICで一定の経験を積んだ後は、また違う領域に進むのも面白いのかも知れません。

M.K：R&Dでは、大学の研究とは使える予算が違い、大きなチャレンジができる楽しさを味わえます。衛星の研究は、未経験の分野でしたが自ら手を挙げて参加させてもらいました。今後も新しいテーマに次々と挑戦し、DTCYでしか得られない経験を積んでいきたいと思っています。社会やビジネスに貢献しながらもアカデミックな研究に注力できるのは、この会社ならではの大きな強みだと感じます。衛星の研究は大学機関でもできるかもしれませんが、打ち上げた衛星で実証実験を行い、その先のビジネスに結びつけていけるのは、DTCYだからこそできることでしょうね。

S.K：Cyber advisoryの魅力は、自分達の技術力を使ってお客様の課題を解決できる点にあります。戦略立案や長い目で見たセキュリティ対策はもちろん大事ですが、即時的な効果を生む対策を提案できるのは魅力です。いってみれば、明日サイバー攻撃を受けてもおかしくないわけですから。そうした大手企業の足元に潜む脅威に対して、アドバイザリーを行い課題解決ができるのは、DTCYならではの経験と面白さなのかなと思います。現在、私が担当しているのは金融業界のお客様が中心なので、そこからさらに幅を広げ、メーカーやインフラなど、ものづくり大国・日本の根底を支える業界のお客様にもサービス提供できる技術を身につけていきたいですね。コンサルタントとしてのスキルとホワイトハッカーとしてのスキル、どちらも高めて成長していける環境はDTCYの魅力だと思います。

やりたいことに挑戦できる環境で、 自分の専門性を磨いていける

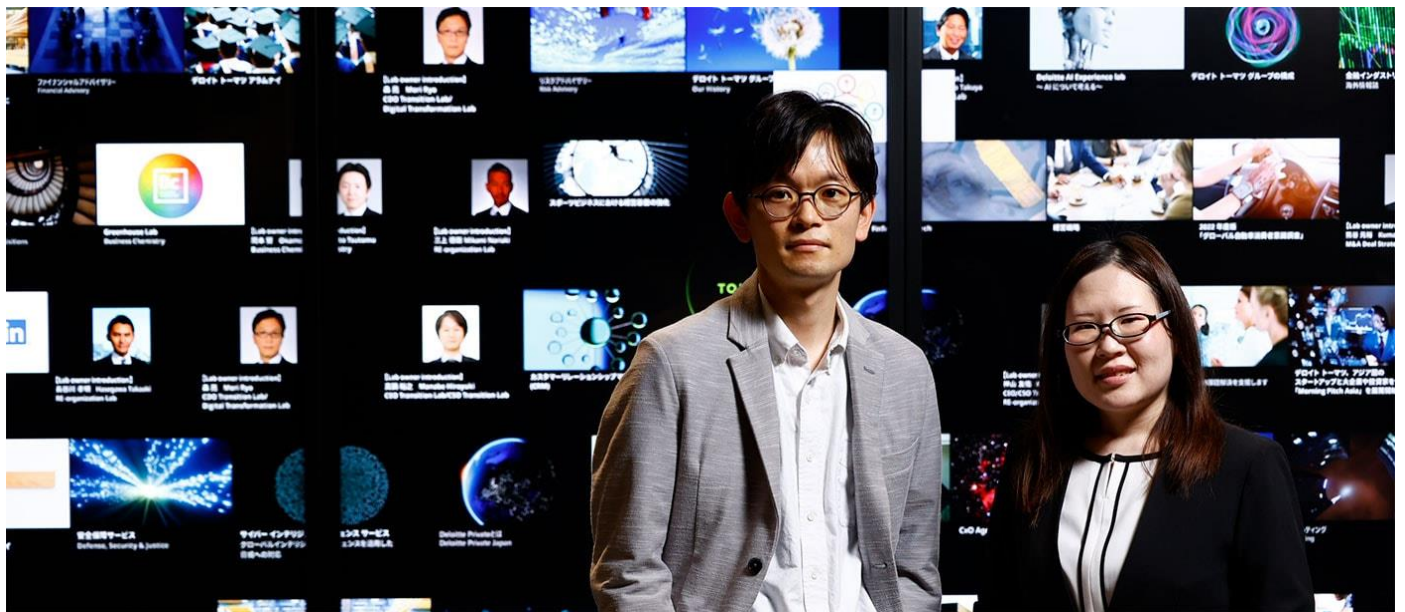
新卒入社者トークセッション（CIC・R&D）

セキュリティの脅威から企業を守るCICと、基礎技術から研究開発を行うR&D。DTCYならではの専門職種で活躍する同期入社2人の若手社員が、仕事の面白さについて語ります！

N.Y、N.A

デロイトトーマツサイバー合同会社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



やりたいことを追究した結果、DTCYに行き着いた

現在の配属部署とミッションについて教えてください。また、なぜDTCYに入社したのでしょうか。

N.Y：私は、サイバーセキュリティ先端研究所（R&D）に所属しています。DTCYではサイバーセキュリティにおけるコンサルティングサービスを提供していますが、戦略や対策の提案のみでなく、実現するためのセキュリティ機器の導入やツールの提供も行っています。中でもR&Dでは、サイバーセキュリティが実用・実装されている分野だけでなく、新たな分野に役立つ技術開発にもチャレンジしています。例えば、昨今は宇宙分野のビジネスに注目が集まっていますが、私は人工衛星をサイバー攻撃から守る研究を進めています。先端分野で蓄積したナレッジをコンサルティングサービスに還元し、研究開発の成果を社会に還元していくことを目指しています。

N.A：私はCIC（Cyber Intelligence Center）に所属し、お客様のネットワークやPCなどのインフラ環境をサイバー攻撃から守ることをミッションとしています。監視・分析を通じて、サイバー攻撃の検出・通知を行う専門部隊で、SOC（セキュリティ・オペレーション・センター）といわれるサービスを提供しています。お客様のインフラが攻撃された際に、マルウェア感染や攻撃者による横展開など影響を受けた可能性があるかを確認し、お客様に攻撃によってどのような事象が発生しているか、どのような対応をとるべきかをリアルタイムで通知・助言することが私たちの仕事です。

N.Y：なぜDTCYを目指したのかという話ですが、実は私は、大学ではサイバーセキュリティと関連性がない物理工学を専攻していました。しかし、自分の将来を考えるにあたって、もっと楽しめることを仕事にしたいと思ったんです。また、専門性と市場価値を高めながらキャリアを築きたいという考えもありましたね。そこで、以前から興味があったサイバーセキュリティを学ぼうと決意し、大学院ではサイバーセキュリティを専門とする研究室に編入しました。

こうした背景があったからこそ、就職活動の際には、セキュリティの専門部署を置いている企業を中心に見ていきました。また、研究室のOB・OGにはサイバーセキュリティ関連の企業に入社している方が多くいましたが、一口にサイバーセキュリティと言っても、千差万別です。例えば医者の担当領域が「外科」「内科」など細分化されているのと同じくらい、セキュリティの領域も奥深いわけですね。私はこれまで培った知見を活かしつつ、新たな学びを得たいと思いがあったので、近い将来のキャリア像で参考にしたい先輩から直接話を聞き、道筋を探した結果、自然とDTCYのR&Dにたどり着いたというイメージです。

N.A：私の場合は、ITに触れたのは専門学校時代。専門学校でコンピューターサイエンスを勉強する中、セキュリティって面白いなと興味が芽生えたんですね。その後、大学に編入し、大学院では情報セキュリティの研究に従事しました。主にフィンガープリント（人物や端末などの識別に用いられるデータの集積）の研究をしていました。Webサイト上でフィンガープリントを収集することでアクセスしてきたユーザーの属性をある程度識別できてしまうという点に魅力を感じたんですね。研究とはまた別ですが、個人的にはハニーポット（不正なアクセスを受けることを前提としたシステムやネットワーク、コンピューター機器）への攻撃を観察することが一番好きでした。

N.Y：ハニーポットって、攻撃を引き寄せるとりとか罠みたいなものですね。

N.A：そうです。集まった攻撃を観察して、何を目的とした通信なのか、最初の攻撃がもし成功したら次に何を行おうとするのかを、実際に見て学んでいくのが好きだったんです。ですから、就職活動の際、「好きなことを仕事にしたい」と考えた結果、その感覚に一番近いのが、サイバー攻撃の実態をこの目で見ることのできるSOCでした。ただ、Slerなど他の企業では、入社時に「セキュリティ分野の、特にSOCの仕事がしたいです」と伝えたとしても、必ずしもSOCの仕事ができるとは限りません。その点、DTCYのCIC職採用はそれが確約されているので、受かったら絶対に行きたいと考えていました。

N.Y：自分が好きだったセキュリティの知見がそのままベースとして活かせる、DTCYという環境がとても魅力的だったというところは私たち二人とも共通していますね。

N.A：専門性と楽しさを突き詰めていった結果、DTCYにたどり着きました（笑）。



R&DとCICは、業務内容も働き方も特殊

具体的な業務内容や仕事の進め方、働き方について教えてください。

N.Y：基本的には個々がメインとなる研究テーマを持ち、それに沿って研究を進めています。プロジェクトごとの定例会議で研究の進捗報告や今後の方針についての議論を行い、それぞれの成果をまとめていきます。近年はコロナ禍でDTCY全体がリモートワークを推進しているので、R&Dでも引き続きリモートワークを主体としています。定例会議もオンラインで開催することが多いですね。午前中はこれをやってその後は、というようなタイム感ではなく、自分でスケジュールを組みながらフレキシブルに動いています。私は現在、人工衛星の研究でプロジェクトリーダーを務めているので、衛星の開発・打ち上げスケジュールを引きながら、サイバーセキュリティの観点からどのような脅威が想定でき、それをどう防ぐのか、どう実装を実現していくのかを考えています

N.A：年間を通じて見ると、忙しい時期などはあるのでしょうか。

N.Y：研究成果がある程度蓄積されたら、国内や海外の学会で発表するため、論文の執筆や研究発表の準備なども行います。例年10月に開催されるコンピューターセキュリティシンポジウムなども含め、国内だけでも年に2、3回は学会が開催されるので、準備期間はかなり忙しくなりますね。

動き方としては、チーム単位が基本です。プロジェクトや研究テーマごとにチームを組むわけですね。最もプレッシャーが掛かるのは、自分が開発した成果物をお客様に向けてサービスとしてリリースする時です。サービスや開発で利用するツールについても、基本は自分たちで一から組み立てていきます。私の場合ですと、セキュリティ人材の育成を目的としたサイバー演習のサービス化に向けて、演習で用いる仮想組織ネットワーク環境の構築や、疑似マルウェアの開発、それらを制御するWebインタフェースなども、チームで内製したりしています。そういう意味では、いわゆるIT企業のエンジニアと近い側面もあるかもしれませんね。CICはどうですか？

N.A：CICは監視業務を行うので、出社することが基本になっています。個人でお客様を担当するのではなく、チームですべてのお客様の環境を監視するのがセオリー。異常を検知するアラートが上がったら状況の分析を行い、問題があると判断した場合にはお客様に通知を行います。日中は企業が活動しているため、マルウェア感染の疑いのあるアラートなども発生しやすいですね。多い時には勤務時間内に50件以上ものアラートが上がってきます。もちろん、すべてに即時対応が必要というわけではありません。ログをパッと見ただけで影響があるかどうかを判断できるケースもあれば、深掘り分析が必要なケースもあります。

インシデント対応が必要な場合は、迅速に動かねばなりません。チームで相談できる体制があり、スーパーバイザーにもすぐにエスカレーションできるようになっているので、早く結論を出すことができるのは強みだと言えます。また、セキュリティ・オペレーションの自動化ツールを活用したり、お客様への通知をテンプレート化したり、分析方法のテキスト化をしたりなど、全体をシステムチックに効率化することで、重大なインシデントが発生してもリソースを割けるようにしています。

N.Y：いわゆるレスキュー部隊のような動き方をするわけですね。

N.A：そうですね。CICは24時間体制で動いているので、働き方も特殊です。日勤・夜勤のシフト制で勤務するので、例えば朝の9時半から21時半まで勤務、というような形ですね。その切り替わりのタイミングには3～5日間のお休みが入ります。日中は5人くらいで勤務することが多く、余裕のある夜間は2名程度となるケースが多いでしょうか。

N.Y：本当に大きなインシデントってどのくらいの頻度で起こるんですか？

N.A：私自身が経験した範囲でお話すると、年に1回くらいは大きなマルウェア関連のインシデントが発生しているような気がします。とはいえ休日がまとまって取れ、自由になる時間も多いため、スキルアップの勉強もできますし、プライベートを充実させることができます。また、夜勤の場合はアラートも少ないので、専門書を読んだり、仮想環境を使って実際に手を動かして技術を習得したりとスキルアップや自己研鑽に費やす時間もしっかり確保できますね。

N.Y：20代の先輩社員など、かなり年齢の近い方も多いので、チャットなどで相談・質問しやすいフラットなカルチャーですね。人間関係はとともよいと思います。

N.A：チーム全員で情報共有し、お客様のことを考えて最善の動きを皆で設計していく。誰か一人に負荷がかかるのではなく、皆で協力してクオリティの高い監視を提供していこうという一体感がありますね。



専門性を磨き、達成感と自己成長につなげていく

仕事の面白さや身に付けられる専門性について教えてください。また、今後のキャリアの展望についてもお願いします。

N.Y：R&Dでは、複数のプロジェクトが走っていますし、さまざまな企業や自治体と連携しながら実用化に向けて取り組んでいます。DTCYにおいては、研究の中で専門性を磨いていくことができますし、ただ研究するだけでなく、社会に実装されていく達成感を味わえますね。私がメインで携わっている人工衛星のプロジェクトを実現するには、まだ数年の時間を要すると思いますが、打ち上げの瞬間を楽しみにしています。まず当面の目標は、人工衛星を無事に打ち上げることです。しかし、それがゴールではなく、研究者としてまた新たな挑戦をすることが求められます。サイバーセキュリティが必要とされる場所を探し、自分で課題を見つけていくことが大事だと思っているので、次に何をするのかを考えていきたいですね。

N.A：チャレンジという観点で言えば、最近のトピックスはありますか？自分の仕事が社会にどう役立っているか見えるのは面白そうです。

N.Y：前橋市とのプロジェクト（前橋市のスマートシティの推進をデロイトトーマツはトータルで支援・知見を提供）が挙げられるでしょうか。新しいデジタルIDやプラットフォームをDTCY側から提案ならびに実装し、市民の方や利用者により良い行政サービスや民間サービスの提供を開始しています。長期にわたって取り組むプロジェクトなので、足の長い仕事になりますよね。

N.A：自分の仕事が身近に感じられるのはいいですね。私は今後、もっと分析力を高めていきたいです。私のお客様の環境は多種多様ですが、どのような機器を使っているのか、それらがどういう関わり方をしているのかという構成図を読み解くことで、自分の中の解像度が上がります。「どこまで状況を把握できて、どこから不明なのか」をちゃんと伝えられる瞬間に、分析のスキルが磨かれていることを実感できますね。お客様にサービス提供する以上は、そのクオリティをより高めていくことが大事ですから。自分の分析力を高め、どこまで現状を理解・把握できたのか、どこに不明点があるのか、それをお客様に確認してもらうことが必要なのかを迅速に明確にしていけるようになりたいです。それができたら、自分の仕事に対する満足度もさらに高まると思っています。

N.Y：サイバーセキュリティの世界は、非常に幅が広いので、どの分野で専門性を磨いていくのが重要ですね。DTCYがまだ着手していない領域もきっとあるので、サイバーセキュリティそのものを学んだ経験がなくても、その領域に専門性を持っていれば活躍できる可能性は大きい。多様なバックグラウンドを持つ人と一緒に働くことで、新しいテーマの発見につなげていけるだろうと思っています。

自らのバックグラウンドを活かし、バリューを見出す挑戦を重ねていく

新卒入社者トークセッション（対談セキュリティ）

サイバーセキュリティのバックグラウンドを活かして活躍する同期入社2人の若手社員が、DTCYの魅力をご紹介します！

I.T、K.M

デロイトトーマツサイバー合同会社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります



セキュリティ知識を活かせる、この上ないフィールド

DTCYに入社された経緯と理由についてお話しください。

I.T：私はアメリカの大学に留学し、サイバーセキュリティを専攻していました。具体的には、社会に対するサイバーセキュリティ教育の拡大を目指し、プラットフォームの整備やWebサイトへの寄稿など幅広く経験しました。実はプログラミングを学びITに親しんだのは大学からだったのですが、サイバーセキュリティの面白さにのめりこんでいきましたね。

K.M：私も情報系の学部という点では同じです。大学ではコンピューターサイエンスを学び、その後、大学院で人工知能を専攻してからアメリカに留学しました。そこでは人工知能に対するセキュリティにおける攻撃とその防衛策について研究していましたね。

I.T：当時の最先端の研究ですね。そこから就職活動をスタートするわけですが、私は最初はアメリカで就職するか迷いました。しかし、長期的に腰を落ち着けて働ける環境がいいと考え、日本に戻る決断をしたのです。グローバル企業でありながら日本法人で働けるデロイトトーマツに興味を持ち、ボストンキャリアフォーラム（毎年10月～11月頃にボストンで開催される世界最大級の就職イベント）を通じてDTCYに興味を持ちました。

DTCYに惹かれたポイントは二つあります。まず、これまで自分が研究してきた分野をそのままビジネスに活かすことができるということです。もう一つは、チームでコンサルティングに取り組めるという点ですね。ITというキーワードには、どこか内にこもるようなイメージもあると思います。しかし、お客様の課題解決につなげるためには、お客様の気持ちに寄り添う必要があります。コミュニケーションをすることが好きな私にとって、チームでお客様に対してコンサルティングを行え、技術的な知見も磨けることは大きなポイントでした。さらに言うなら、国境を越えたコラボレーション案件にも取り組めるので英語力も活かせると考えました。これは他のコンサルティングファームやSIerにはない魅力でしたね。

K.M：DTCYは、新卒でもサイバーセキュリティを専門としたコンサルタントのポジションに就けると明言していましたからね。ですが私の場合、I.Tさんのような計画性はなかったかもしれません（笑）。実は当初は、留学先の友人と起業するつもりだったんです。しかし就職というキャリアの可能性も残そうと考え、ポスhtonキャリアフォーラムに急遽参加することにしました。

I.T：なぜDTCYを選んだのでしょうか。

K.M：ウォークイン（当日に履歴書を会社ブースに提出し選考を受けること）を実施していたのはDTCYを含むコンサルティングファーム2社のみでした。そこでDTCYを知り、新卒採用でサイバーセキュリティの専門職を募集していることにまず驚きました。日本の大学でサイバーセキュリティを専攻している学生は本来、ほとんどいませんからね。そんな中、自分の専門領域が活かせるということもありDTCYを訪れ話を聞いてみると、お会いした社員の人が良く、どんどん会社の方針に興味が湧いていきました。サイバーセキュリティ領域の人材を新卒で採用し、組織を拡大しようというビジョンを知り、納得がいったのを覚えています。そして選考がスムーズに進み内定を頂き、計3日間で就職活動を終わりました。

I.T：3日とは、すごくスピード感のある話ですね。今の話とつながるかもしれませんが、私にとっても面接は大きなターニングポイントでした。他社の面接であれば、人事の方など、サイバーセキュリティのフロントポジションにいない方が対応されるケースが多いのですが、DTCYは面接のときに現場にも参画しているパートナーの方が来られたので、とても好印象でした。話もわかりやすく、働くイメージが明確になりましたね。



自らの知見が仕事に活き、バリューを見出せる

現在の業務内容と、学生時代の経験をどう活かしているかお聞かせください。

I.T：グローバル製薬企業様の国内工場のセキュリティ製品の導入支援と運用を手掛けています。具体的には、サイバー攻撃などのセキュリティにおける脅威から工場を守るために、シンガポールや東南アジア、ヨーロッパなどの全ての工場に標準化されたセキュリティ製品を導入する大規模なプロジェクトです。扱う製品は、最先端のファイアウォールやモニタリング機器、ネットワーク通信の脆弱性（OSやソフトウェアにおけるセキュリティ上の欠陥）を検知するモニタリングツールなど、多岐にわたります。自分の知識を駆使し、サイバー攻撃から工場の製造ラインを守り、薬品の品質管理検査データや研究情報の流出を防ぐことができるため、お客様の工場内における大切な資産を守ることに繋がります。これはまさに自分がやりたかったことだと、やりがいを感じているところです。

K.M：私の場合は、機密保持の観点で詳細にお話できないプロジェクトが多いのですが、とあるお客様のインシデント対応という観点で、セキュリティ態勢や対策の有効性を攻撃者として確認するプロジェクトに参画した例が挙げられます。もちろん擬似的なものではありますが、サイバー攻撃を受けた現場に入り、実際にどうウイルスが実行され、どのような被害を及ぼすのかというリアルな実態を目の当たりにできました。この学びは、自分にとって大きな収穫であり、DTCYという信頼があるからこそ、これだけ大きな企業からインシデント対応を任せてもらったのだと思いますね。

業務全般に言えますが、私が積み重ねてきたサイバーセキュリティの知識を認めてもらえる機会が非常に多く、そこに大きなやりがいを感じます。かつ、チームの先輩と専門的な知識について話し合えるので、仲間と分かり合える喜びがありますね。DTCYでなくては得られない経験、味わえないポジションだと思っています。

I.T：そこには大きく共感します。DTCYが提供するサービスは上流に関わるものが多いですが、上流から下流まで多様な知識を持つ先輩方がいます。サイバーセキュリティの知見としては全てをカバーできますし、私自身が持つ知識もバリューとして見出してもらえます。これまで積み重ねてきた学びが活きる瞬間を日々実感できますね。



社会貢献性の高いミッションへ挑み、 見える世界も広がっていく

I.T：ライフサイエンスとヘルスケアの領域で一流のコンサルタントになりたいと考えています。私は大学でアメフト部に所属していたので、ケガなどで病院にお世話になることも多かったのです。だから病院や製薬会社などのメディカルといわれる領域は、非常に身近であり、自分ごと化できる領域でもあります。

K.M：社会に貢献している実感が得られるわけですね。

I.T：過去には、病院がマルウェアに感染し、カルテを暗号化されたことで患者情報を確認できなくなった事件もありましたが、今後はますますサイバーセキュリティに深い知見を持つアドバイザーの力が需要とされます。そして、患者の情報を守ることで、真に助けを求めている人々の役に立つことができるのではないかと考えています。

K.M：私は常にワクワクする場に身を置きたいと考えています。DTCYに入社してからの3年間、アサインされた案件は自身が希望したものか、想定をはるかに超えた面白いものばかりでした。知的な好奇心を満たしてくれる難易度の高い案件に挑戦し続けているので、常に胸が高鳴ります。

DTCYで働くメリットの一つに「見える世界が広がる」という点が挙げられますね。DTCYという大きなフィールドに身を置いてこそ、見える景色があるということを実感しています。そうした意味では、自分の目標は達成し続けられていると思いますね。